

教育内容

専門分野

基礎看護学

地域在宅看護論

目次

基礎看護学	1
地域在宅看護論	24

《基礎看護学》

目的

看護の概念および人間のライフサイクルにおける健康の意義を理解し、健康のあらゆるレベルにある対象の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

目標

1. 看護の目的と機能を理解する。
2. 人間の特徴を学び、看護の対象を理解する。
3. 対象に応じた看護が展開できるための基礎的知識・技術・態度を修得する。

科目名: 基礎看護学概論 単位数:1 時間数:30 1年前期**講師名: 菅家志津子(専任教員) [実務経験 竹田総合病院で看護師として16年]**

科目設定理由

看護学の導入として、また、専門領域を学ぶ上での土台となる科目である。ここでは、看護の歴史、看護理論、看護の対象など様々な角度から看護の本質を考え理解を深める。さらに看護職の将来を展望し、社会に求められる専門職としての看護について考えられる科目とする。

学習目標

1. 看護の概念、定義、看護の対象である人間について理解する。
2. 看護の歴史の変遷と看護理論について理解する。
3. 看護職の将来を展望し、社会が求める看護について考える。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	看護とは何か。看護師の仕事とは何か	演習	
2	1. 看護の本質 1) 看護の誕生～近代～現代までの看護	講義・演習	
3	2) 世界の看護と日本の看護 3) 看護の定義		
4	2. 看護の役割と機能 1) 看護ケアについて 2) 看護の実践について 3) 看護の役割・機能の拡大		
	3. 看護の継続性と連携		
	4. 看護の役割と倫理		
	5. 職業としての看護		
	6. 看護職の資格・養成制度 7. 看護職者のキャリア開発		
5	安全・安楽・安寧をもたらす看護とは何か。 看護実践をする上で大切にすることは何か	演習	看護技術体験 表持参 レポート
6	1. 看護の対象の理解	講義・演習	
7	1) 人間のこころとからだを知る 2) 病気によるこころの変化 3) こころの理解に役立つ理論 4) 全体としての人間の理解 ①成長・発達する存在、 ②ニーズを持つ存在、 ③生活を営む存在、 ③適応する存在 ④社会・文化的な存在		
8	1. 健康のとらえ方 健康とは何か		
9	1) 健康の定義 WHO の定義 ウェルネスの概念 ヘルスプロモーション 2) 健康でない状態とはどのようなものか 3) 障害とは何か 4) 健康と生活 2. 国民の健康状態 3. 国民のライフサイクル		

10	1. 看護理論	講義・演習	
11	グループワーク・プレゼンテーションにて理解を深める		
12	F, ナイチンゲール ドロセア, E, オレム S.C, ロイ H, E, ペプロウ I, J, オーランド J, トラベルビー		
13	2. 看護理論の抄読	演習	レポート
14	V, ヘンダーソン「看護の基本となるもの」		
15	1) 看護師の独自の機能 2) 人間の基本的欲求およびそれらと基本的看護との関係 3) 基本的看護の構成要素		

評価方法: 筆記試験 60% レポート 40 %

テキスト: 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院

基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

看護の基本となるもの 日本看護協会出版会

看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会

私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法 日本看護協会出版会

科目名:日常生活援助論 I (環境・活動・休息) 単位数:1 時間数:20 1年前期 講師名:間瀬陽子(専任教員)

科目設定理由

患者の療養の場である病室・病床は、個々の患者の家庭のように配慮することが望ましいが、治療の場でもあるため、家庭と同じようにはいかない。そのため、個々の患者にとって、人としての尊厳がまもられ、少しでも生活しやすく、安全で快適な場であるよう環境を整えることが大切である。また、活動・休息のバランスが上手に取れることは身体的・心理的・社会的な調和やその人らしく生活できることにつながる。日常生活援助論 I では、より健康で安全・安楽に生活するための療養環境調整の援助および活動・休息を整える援助に必要な基本的な知識・技術・態度について学ぶ科目とする。

学習目標

1. 療養環境を調整する意義を理解する。
2. 人間にとっての活動と休息の意義を理解する。
3. 安全・安楽で快適な療養環境の調整に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。
4. 活動と休息を整える援助に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 療養環境整備の意義 2. 療養生活の環境を構成する要素 3. 基本的活動の基礎知識 1)活動の意義と活動制限がもたらす影響 2)基本肢位と良肢位 3)基本体位と特殊体位	講義 演習(グループワーク)	
2	1. 基本的活動の基礎知識 1)ボディメカニクスの意義 2)ボディメカニクスの原理・原則 3)安楽な体位保持(ポジショニング)の方法 4)移動の定義と方法	講義 演習(グループワーク)	看護実習室
3	1. 基本的活動の基礎知識(移動:体位変換・歩行・移乗・移送) 1)体位変換 水平移動・側臥位・長座位・端座位・立位・ファウラー位など 2)車椅子の点検、車椅子への移乗 2. 安全な療養環境の整備	講義 演習(グループワーク)	看護実習室
4	体位変換・保持、移乗、安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防、行動制限を含まない) 1. 体位変換・保持 2. 移乗介助(車椅子) 3. 安全な療養環境の整備	学内実習	専任教員4名
5	1. ベッドメイキングのポイント 2. リネン類の畳み方と準備 3. ベッドメイキングの手順・方法・留意点等	講義 演習(グループワーク)	50分 看護実習室
6	ベッドメイキング	学内実習	専任教員4名
7	1. 基本的活動の基礎知識 1)ストレッチャーの点検、ストレッチャー(担架)への移乗とストレッチャー移送の方法・留意点 2)車椅子の移送方法と留意点 3)歩行移動介助の方法と留意点	講義 演習(グループワーク)	看護実習室 講堂→玄関→スロープ→門

8	移乗・移送・歩行・移動介助 1. 車椅子での移送 2. 移乗介助(ストレッチャー) 3. ストレッチャー移送 4. 歩行・移動介助	学内実習	専任教員4名
9	1. 快適な療養環境の整備 2. 臥床患者のリネン交換の手順・方法・留意点等	講義 演習(グループワーク)	50分 看護実習室
10	1. 休息・睡眠の意義 2. 休息・睡眠のメカニズム 3. 睡眠状態の観察と睡眠を妨げる因子 4. 睡眠障害の分類と特徴 5. 休息・睡眠(安楽・安寧含む)への援助方法	講義 演習(グループワーク)	
11	臥床患者のリネン交換、快適な療養環境整備 1. 臥床患者のリネン交換 2. 快適な療養環境の整備	学内実習	専任教員4名

評価方法：筆記試験 100% 実技試験

テキスト：基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会
 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア

科目名:日常生活援助論Ⅱ(清潔・感染予防) 単位数:1 時間数:30 1年前期 講師名:小汲 律(専任教員)

科目設定理由

日常生活における人間の清潔保持行動は、幼少の頃から身につけていた習慣や感覚的な動機づけにより営まれている。しかし、何らかの健康障害によって清潔行為が自ら営めない人にとって清潔の援助は身体的、心理的、社会的な意義がある。対象者の状況やニーズに合わせた安全・安楽な清潔援助について学ぶ科目とする。また、感染予防に関する知識・技術を習得することは人間がより健康に過ごすために必要である。清潔の援助や感染予防に関する基本的な知識・技術・態度を身につける科目とする。

学習目標

1. 身体の清潔の意義と生理学的メカニズムを理解し、全身の皮膚・粘膜の清潔を保持する援助方法を理解する。
2. 対象者の清潔に関するニーズをアセスメントし、適切な援助方法を選択し実施、評価できる。
3. 安全な医療を提供するための感染予防に関する基礎的知識・技術・態度を習得する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 身体の清潔に関する基礎知識 1) 清潔の意義 2) 皮膚・粘膜の構造と機能 3) 全身を清潔に保つ方法 4) 清潔援助が生体に及ぼす影響 (1) 入浴 (2) マッサージ (3) 洗剤	講義	
2	1. 身体の清潔のアセスメント 1) 皮膚・粘膜・爪・毛髪の観察 2) 清潔のニーズ 3) 清潔のニーズを阻害する要因 4) セルフケアの程度	講義 グループワーク	
3	1. 事例のアセスメントと援助方法 ① 1)入浴・シャワー浴の介助 2)口腔ケア	講義 グループワーク	
4	3)部分浴(手浴・足浴) 4)陰部の保清 5)洗髪・整容		
5	1. 清潔の実際と観察(1) 1) 口腔ケア 2) 義歯の取り扱い	学内実習	50分
6	1. 清潔の実際と観察(2) 1)部分浴 (1)手浴	学内実習	専任教員 4名 50分
7	1)部分浴 (2)足浴	学内実習	専任教員 4名 50分
8	1. 事例のアセスメントと援助方法 ② 1) 衣生活の基礎知識 ①寝衣交換の意義 ②寝衣の管理 ③寝衣交換の方法 ④衣生活のアセスメント	講義 実習室	

9	1. 清潔の実際と観察(3) 1) 臥床患者の洗髪 2) 整容	学内実習	専任教員 4名
10	1. 事例のアセスメントと援助方法 ③ 1) 臥床患者の寝衣交換 (1) 点滴・ドレーン等をしていない患者の寝衣交換 (2) 点滴・ドレーン等をしている患者の寝衣交換	講義 実習室	50分
11	1. 清潔の実際と観察(4) 1) 臥床患者の寝衣交換 (1) 点滴・ドレーン等をしていない患者の寝衣交換 (2) 点滴・ドレーン等をしている患者の寝衣交換	学内実習	専任教員 4名
12	1. 事例のアセスメントと援助方法 ④ 1) 臥床患者の清拭(熱布清拭含む)	グループワーク 実習室	50分
13	1. 清潔の実際と観察(5) 1) 臥床患者の全身清拭	学内実習	専任教員 4名 (14回目 50分)
14			
15	1. 感染予防の基礎知識 1) 感染源と感染経路 2) 感染の分類 1) 滅菌と消毒	講義	認定看護師 田中さゆり
16	2) 院内感染防止対策 3) 標準予防策 スタンダードプリコーション 4) 医療廃棄物の処理	講義	
17	1. 感染予防の実際① 1) 感染予防のための清潔と不潔の区分について考える 2) 衛生的手洗い	グループワーク 実習室 学内実習	
18	1. 感染予防の実際② 1) 防護用具の着脱 2) 滅菌物の取り扱い 3) 滅菌手袋の着脱	学内実習	認定看護師 専任教員3名

評価方法: 筆記試験 100 % 実技試験

テキスト: 基礎看護学[1] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版

看護が見える① 基礎看護技術 メディックメディア

科目名:日常生活援助論Ⅲ(食事・排泄) 単位数: 1 時間数: 30 1年前後期**講師名:1～6(専任教員)・7～18 小汲律(専任教員) [実務経験 竹田総合病院で、看護師として9年(小汲)]**

科目設定理由

人間にとって食事・排泄は生命を維持するうえで必要不可欠な行為である。何らかの原因で食事・排泄が困難になったとき、人は生命の危機に直面する。食事は1日の生活の中で、生活リズムを構成する要素として必要な活動であるとともに、食事を行うことで幸福を感じたり、人間関係が構築されたりと生活をゆたかにする活動でもある。そして、自力で排泄行動ができなくなったとき、排泄援助する側は、普段誰も目にする事のない排泄を援助されることが羞恥心とともに、自尊心を傷つけることにつながることを理解しておく必要がある。

日常生活援助をしていくうえで、対象の状況や価値観を尊重し、対象の生活に近い状態での看護が求められる。そこで、対象の状況や治療上の制限、対象者のニーズに即した安全・安楽な食事・排泄の看護技術を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 健康生活における食事の意義を理解する
2. 対象の状況に応じた食事の援助を行うために必要な基本的知識・技術・態度を習得する
3. 人間にとっての排泄の意義を理解する
4. 対象に応じた排泄の援助を行うために必要な基本的知識・技術・態度を習得する

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	食事の基礎知識 1. 健康生活における食事の意義	講義 演習 (グループワーク)	50分
2	食事の援助の基礎知識 1. 食事に必要な身体機能のアセスメント 2. 栄養状態のアセスメント 3. 水分・電解質バランスのアセスメント 4. 食欲のアセスメント 5. 摂食行動のアセスメント 6. 食生活変更の必要性	講義 演習 (グループワーク)	
3	食事の援助の基礎知識 1. 食事の援助の基本 食事行動に制限がある人への食事介助 2. 食事援助計画書の立案	講義 演習 (グループワーク)	
4	食事の援助の実際 1. 嚥下障害のない患者の食事援助 2. 患者の誤認防止策	学内実習	専任教員4名
5	非経口的栄養摂取法の基礎知識 1. 経管栄養法の基礎知識と合併症 2. 経静脈栄養法の基礎知識と合併症 3. 経管栄養法の援助	講義 演習 (グループワーク)	
6	経管栄養法の実際 1. 経鼻胃チューブの挿入 2. 経管栄養法による流動食の注入	学内実習	専任教員4名
7	排泄の基礎知識 1. 排泄の意義 2. 排尿・排便のメカニズム 3. 排尿・排便のアセスメント 4. 排泄の援助におけるアセスメント視点	講義	50分

8	自然な排泄を促す援助の基礎知識 1. トイレにおける排泄援助 2. ポータブルトイレでの排泄援助 3. 床上排泄の援助(尿器・便器) 4. オムツによる排泄援助(失禁をしている患者のケア含む)	講義	
9	排泄の援助の実際 1. ポータブルトイレの排泄援助 2. 尿器・便器を用いた排泄援助	学内実習	専任教員 4名
10	排泄の援助の実際 1. 尿器・便器を用いた排泄援助 清潔の援助の実際 1. 陰部の保清	学内実習	専任教員 4名
11	排便を促す援助の基礎知識 1. 便秘のアセスメント 2. 便秘改善のための看護ケア 3. 浣腸の定義・目的・種類・方法、適応と禁忌 4. 摘便の定義・方法、適応と禁忌 5. 浣腸(颯風・高圧・グリセリン)の方法	講義 演習(グループワーク)	50分
12	排便を促す援助の実際 1. 浣腸(グリセリン浣腸) 2. 摘便	学内実習	専任教員 4名
13	排尿障害の援助と導尿の基礎知識 1. 頻尿・失禁・尿閉などの援助 2. 一時的導尿の目的・適応・禁忌と方法 3. 持続的導尿の目的・適応・禁忌と方法	講義	50分
14	導尿の実際 ・ 一時的導尿(女性) ・ 膀胱留置カテーテルの管理	講義 演習(グループワーク)	50分
15	導尿の実際 ・ 一時的導尿(女性)	学内実習	専任教員 4名
16	導尿の実際 ・ 一時的導尿(男性)	学内実習	専任教員 2名
17 18	導尿の実際 ・ 膀胱留置カテーテル挿入・管理	学内実習	専任教員 4名 18回目 50分

評価方法: 筆記試験 実技試験

テキスト: 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

看護がみえる① 基礎看護学技術 メディックメディア

看護がみえる② 基礎看護学技術 メディックメディア

参考文献:看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版

エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図 中央法規出版社

科目名:日常生活援助論Ⅳ(コミュニケーション) 単位数:1 時間数:30 1年前期

講師名:1～8猪俣沙織(専任教員)、9～15高野真智子(専任教員)

[実務経験 竹田総合病院で助産師として20年(猪俣)、保健師として15年(高野)]

科目設定理由

看護に必要な基本となる技術であるコミュニケーションの意義を理解し、良い人間関係を成立させるために必要なコミュニケーションの基本的知識・技術・態度を習得する。さらに、コミュニケーション能力を高めるためにプロセスレコードを通して相手の気持ちだけでなく、自分の言動を考察し理解するための方法を習得する。また、各々の学びを共有し合い、現象の捉え方や看護の実践方法を発展させるために必要なカンファレンスの基本的知識・技術・態度を習得する科目とする。

学習目標

1. 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、よい人間関係を成立させるために必要なコミュニケーションの基本的知識・技術・態度を習得する。
2. プロセスレコードを用いたコミュニケーション場面の振り返り方法を理解する。
3. カンファレンスの目的や運営の方法を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. コミュニケーションの意義と目的 1)コミュニケーションとは 2)看護・医療におけるコミュニケーション 3)報告・連絡・相談の必要性	講義 演習	
2	1. コミュニケーションの構成要素と成立過程 1)コミュニケーション手段 2)構成要素と成立過程 3)ミスコミュニケーション	講義 演習	
3	1. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 1)接近的コミュニケーションの原理 2)接近的行動の前提となる基本的な態度	講義 演習	
4	3)接近的行動と非接近的行動 4)接近的コミュニケーションを成立させるために		
5	1. 効果的なコミュニケーションの基本 1)傾聴の技術 2)情報収集の技術	講義 演習	
6	3)説明の技術 4)アサーティブネス		
7	1. コミュニケーション障害への対応 1)コミュニケーション障害がある人の特徴 2)言語的コミュニケーションに必要な身体機能	講義 演習	
8	3)コミュニケーション障害がある人への対応		
9	1. コミュニケーション能力向上のために 1)プロセスレコードとは	講義	
10	2)プロセスレコードの記載方法		
11	1. プロセスレコードの実際 1)一場面をプロセスレコードに記載	演習(グループワーク) 講義	
12	2)プロセスレコードを通して場面を振り返る	演習(グループワーク)	

13	<p>1. 看護におけるカンファレンス・学生カンファレンスの要点</p> <p>1) 看護におけるカンファレンスの種類</p> <p>2) カンファレンスの基本要素</p> <p>3) カンファレンスの運営</p> <p>(1) 司会者の役割</p> <p>(2) 参加者の役割</p> <p>(3) 記録の仕方</p> <p>4) 学生カンファレンスの目的</p> <p>5) カンファレンスが上手になるコツ</p> <p>(1) 話す力をつけよう</p> <p>(2) 応用する力をつけよう</p>	<p>講義</p> <p>演習(グループワーク)</p>	
14 15	<p>1. テーマカンファレンスの実際</p> <p>1) 事例に基づくテーマカンファレンスの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの絞り込み ・テーマに合った資料を収集する ・カンファレンスへの参加姿勢 ・司会者、参加者、記録者の役割を果たす ・テーマに対する結論を導く ・カンファレンスでの学びを記録する 	<p>演習(グループワーク)</p>	

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院

川島みどり、杉野元子:看護カンファレンス第3版 医学書院

科目名：日常生活援助論Ⅴ(事例演習) 単位数：1 時間数：15 1年後期 講師名：専任教員

科目設定理由

近年の看護教育において、学生の技術習得や実践能力の向上を図るために状況を設定した演習の充実が求められている。学生は日常生活援助論で「環境」「活動・休息」「清潔」「コミュニケーション」「食事」「排泄」等の基本的な看護技術について学習している。ここでは事例をもとに健康障害を持つ対象者の援助について気づき、既習の知識、技術を統合して考えた援助を実施する。一人の患者を受け持ち援助する基礎看護学実習ⅠBに繋げる科目とする。

学習目標

1. 健康障害を持つ対象者の事例から必要な日常生活援助を抽出できる。
2. 対象の状態に応じ安全・安楽・思いやりを考慮した計画立案、援助の実施、評価ができる。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 事例の提示と演習のオリエンテーション 2. 紙上事例の情報整理	講義 グループワーク 個人ワーク	
2	1. 対象の新たな情報の収集 2. 情報の共有	シミュレーション演習 グループワーク 看護実習室	
3	1. 援助の抽出 1)情報の解釈・分析と援助の抽出 2. 援助計画の立案 2)必要な援助の計画立案	グループワーク	50分
4	1, 計画立案を基に日常生活援助の実施 1)計画立案した援助の実施	演習 グループワーク 看護実習室	
5	2)計画立案の修正		
6			6回目 50分
7	1, 模擬患者(2年生)に日常生活援助の実施	演習 グループワーク 看護実習室	50分 患者役:2年生 半数ずつ2回実施
8	1. 日常生活援助の実施、評価 2. 演習を通してのまとめ	演習 グループワーク	
9	1. 全体討議	演習 グループワーク	

評価方法: レポート 100 %

テキスト: 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護が見える① 基礎看護技術 メディックメディア

科目名:診療補助技術論Ⅰ(ヘルスアセスメント) 単位数:1 時間数:30 1年前期**講師名:永井 純(専任教員) [実務経験 竹田総合病院で看護師として13年]****科目設定理由**

ヘルスアセスメントは対象の健康状態を総合的に判断し治療や処置が必要かなどを判断する重要な技術である。近年看護の場が病院から在宅へ拡大することで、ますますヘルスアセスメントの重要性は高まっている。そこでここでは、ヘルスアセスメントに必要な、呼吸、体温、脈拍・血圧等のバイタルサインの測定と、問診、視診、聴診、打診等のフィジカルイグザミネーションの習得に必要な基礎的知識・技術を学ぶ科目とする。

学習目標

1. ヘルスアセスメントの意義を理解する。
2. ヘルスアセスメントに必要な知識・技術・態度を習得する。
3. フィジカルイグザミネーションを習得する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. ヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントとは 2. バイタルサイン 1) バイタルサインとは 2) 体温、脈拍、呼吸、血圧とその変動因子 3) 意識 3. 身体計測	講義・演習	
2	1. 体温、脈拍 1) 体温の基礎知識、測定方法、アセスメント 2) 脈拍の基礎知識、測定方法、アセスメント		
3	1. 呼吸、血圧 1) 呼吸の基礎知識、測定方法、アセスメント 2) 血圧の基礎知識		
4	1. 血圧 1) 血圧の測定方法、アセスメント		
5	1. バイタルサインの測定 (体温、脈拍、呼吸、血圧)	学内実習	専任教員 5名
6			
7	1. 身体計測	学内実習	50分
8	1. 健康歴のアセスメント 1) 健康歴聴の目的 (1) 問診 2) 健康歴の内容 (1) 主訴 (2) 現病歴 (3) 既往歴 (4) 生活背景	講義	50分
9	1. フィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントとは 2) フィジカルイグザミネーション (1) 視診 (2) 触診 (3) 聴診 (4) 打診	講義・演習	
10	1. 呼吸器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 1) 視診 (樽状胸、漏斗胸、鳩胸) 2) 触診 (ラトリング、深呼吸に伴う胸郭の広がり) 3) 聴診 (異常呼吸音、副雑音) と 4) 打診 (共鳴音、濁音、鼓音)		
11	1. 循環器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 1) 視診 (頸静脈の怒張、心尖拍動) 2) 触診 (スリル、浮腫) 3) 聴診 (心音と聴取領域、心雑音)		
12	1. 消化器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 1) 視診 (皮膚の黄染、膨隆、腹壁静脈の怒張、腹部大動脈の拍動) 2) 聴診 (腸蠕動音、血管雑音) 3) 打診 (鼓音、腹水、叩打痛) 4) 触診 (筋性防御、圧痛点、反跳圧痛)		
13	1. 乳房、腋下のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 1) 視診 (対称性、陥没) 2) 触診 (領域区分、腫瘤)		

	2. 神経系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 1) 運動機能の評価 (バレー徴候) 2) 小脳機能の評価 (鼻指鼻試験、踵膝試験)	9~12回、15回 後半実習室	
14	1. 筋、骨格器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 1) 基本的の関節の動き (内転、外転、内旋、外旋、回内、回外他) 2) 関節可動域 (ROM) 3) 徒手筋力テスト (MMT)		
15	1. 頭頸部、感覚器のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 1) 対光反射 2) ウェーバーテスト、リンネテスト 3) 胸鎖乳突筋負荷試験		
16	1. フィジカルイグザミネーション (呼吸器、循環器、消化器)	学内実習	専任教員 4名

評価方法 筆記試験 100%

テキスト： 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

科目名:診療補助技術論Ⅱ(薬物療法・検査) 単位数:1 時間数:30 2年前期 講師名:黒岩翠(専任教員)

[実務経験 竹田総合病院で看護師として15年]

科目設定理由

看護師の役割は「療上の世話」と「診療の補助業務」がある。この科目においては「診療の補助業務」を中心とし、看護を実践する基礎的能力を養う。患者に薬物を投与する「薬物療法」は、医師の指示に基づいて行われる。しかし、看護師が安全で確実な与薬を実施しなければ、薬剤の効果が期待できないばかりか、患者の生命をも脅かすことにもなる。また、検査は病気の診断、病態の把握や予後の予測、治療効果の判断などに活用されるとともに、検査から得られる情報は看護情報としても重要な意味を持つ。検査・治療がもつ意義は非常に大きい。検査自体が心身両面に苦痛をもたらす場合があり、検査・治療の前段階から適切な援助が必要になる。ここでは、看護師が安全で効果的な与薬を援助する方法、患者に安全・安楽な検査・治療を提供する方法に必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

学習目標

1. 薬物療法の意義・目的および看護師の役割を理解し、与薬を安全かつ正確に行う技術を習得する。
2. 検査・治療の意義および看護師の役割を理解し、実施時の介助方法と検体の採取方法を習得する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 薬物療法における看護師の役割 2. 薬物療法における安全管理 1) 薬剤の管理方法(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍を含む) 2) 誤薬防止の手順に沿った与薬	講義・演習	
2	1. 与薬の種類と援助方法 1) 経口与薬・口腔内与薬 2) 吸入薬 3) 点眼・点鼻 4) 経皮的与薬 5) 直腸内与薬	講義・演習	
3	1. 薬物療法における援助方法 1) 経口薬(ハッカカル錠、内服薬、舌下錠) 2) 経皮・外用薬の投与 3) 座薬の投与 4) 薬剤等の管理	学内実習	専任教員4名
4	1. 注射法による薬物療法 1) 注射の目的 2) 注射の合併症、安全・安心な注射法 3) 注射に必要な器具と使用方法 注射用具の名称、注射器・注射針の接続、薬液容器の取扱い(アンブル・バイアル)、使用器具の後片付け 4) 針刺し事故防止 対策と実施、針刺し事故後の感染防止の方法	講義・演習	
5	1. 皮内・皮下・筋肉注射の援助方法 1) 皮内・皮下・筋肉注射とは 2) 注射部位 3) 注射方法 2. 注射部位の選択方法	講義・演習	看護実習室
6	1. 皮下注射 準備～実施 2. 針刺し事故の防止・事故後の対応	学内実習	専任教員4名
7	1. 筋肉内注射 準備～実施	学内実習	専任教員4名

8	1. 静脈内注射の援助方法 1) 静脈内注射の種類 2) 注射方法 3) 必要な器具と使用方法 4) 留意事項 5) 点滴静脈内注射の輸液管理	講義・演習	後半、看護実習室
9	輸液ポンプ、シリンジポンプ 使用目的、操作方法	講義・演習	
10	点滴静脈内注射の援助方法・管理	学内実習	専任教員 4 名
11	輸液ポンプとシリンジポンプ(医療機器)の操作・管理	学内実習	専任教員 4 名
12	1. 輸血療法 1) 種類と取扱い方法 2) 援助と管理方法 3) 副作用(有害事象)の観察	講義・演習	50 分
13	輸血療法の管理	学内実習	50 分
14	1. 診察・検査時の看護師の役割 1) 診察・検査時の看護師の役割 2) 検体検査の種類と検体の採取・取扱い (血液、尿、便、痰)	講義・演習	
15	1. 静脈血採血の方法・取扱い 2. 検尿の取扱い	学内実習	専任教員 4 名
16	1. 検査・処置の介助方法 1) 胸腔穿刺 2) 腹腔穿刺 3) 腰椎穿刺 4) 骨髄穿刺	講義・演習	50 分
17	検査の介助の実際 4 事例	学内実習	専任教員 4 名 50 分

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト:基礎看護学[2] 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院
基礎看護学[3] 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院
看護がみえる① 基礎看護学技術 メディックメディア
看護がみえる② 基礎看護学技術 メディックメディア

科目名：診療補助技術論Ⅲ(救急・症状別) 単位数:1 時間数:30 2年前期**講師名：渡辺恵美子(専任教員)・佐藤敬子(専任教員)**

科目設定理由

救急看護は、プレホスピタルケアや災害時の急性期、地域包括ケアシステムにおいても求められ、時代と共に変化している。そして看護の対象は、年齢、性別、国籍、疾患の種類、重症度を問わない。すなわち、すべての看護領域に共通する。また、救急医療の場面では呼吸や循環など生命の危機に直結するような病態や様々な症状を呈する対象に出会う。特に人間にとって呼吸は、生命維持に不可欠であるため、呼吸のニーズをアセスメントし、迅速かつ適切な看護技術を提供することが必要である。そこで本科目は、救急看護の概要を学び、必要な知識を身につけ、様々な病態や症状に応じた救急処置や看護を実践するための科目とする。

学習目標

1. 救急看護の概要を理解する。
2. 呼吸のニーズに関するアセスメントができ、呼吸を楽にする技術を習得する。
3. 体温調節に関するアセスメントができ、体温を調節する技術を習得する。
4. 救急医療の主要な病態と症状に対する救急処置、看護を理解する。
5. 救急時に必要な看護技術が習得できる。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1.救急看護とは 2.救急医療体制 3.救急看護の場 4.救急看護の対象 5.救急患者の観察とアセスメント 1)全身と外観の観察とアセスメント 2)重症度・緊急度・トリアージ	講義	
2	1.呼吸困難とは 2.呼吸のニーズに関するアセスメント 3.呼吸法 4.排痰法の目的・種類・方法と観察 1)体位ドレナージ 2)咳嗽介助・ハフイング 5.吸入の目的・種類・方法と観察 1)薬液吸入 2)気管内加湿 6.酸素吸入療法 1)酸素吸入時の原則 2)各種酸素投与器具と特徴 3)酸素流量計・酸素ボンベの取り扱い、操作方法 4)酸素吸入療法を受けている人の観察	講義	
3	1.体位ドレナージ 2.気管内加湿 3.酸素吸入療法、酸素ボンベの操作	学内実習	専任教員3名
4	1.吸引の目的・種類と方法 1)口腔・鼻腔吸引 2)気管内吸引 気管内吸引時の観察点	講義 グループワーク (実習室)	

5	1. 口腔・鼻腔・気管内吸引	学内実習	専任教員4名
6	1.心肺停止状態に対する救急処置と看護 1)心肺停止状態の定義 2)救急処置と看護 一次救命処置(BLS)	講義	
7	二次救命処置(ALS)	講義	50分
8	1.一次救命処置(BLS) ※緊急時の応援要請含む	学内実習	専任教員4名
9	1.意識障害に対する救急処置と看護 1)意識障害の定義と評価 JCS、GCS 2)意識障害の原因 3)意識障害の病態 4)救急処置と看護	講義	
10	1.ショックに対する救急処置と看護 1)ショック分類と定義 2)ショックの原因 3)ショックの病態 4)救急処置と看護	講義	
11	1.創傷処置(創洗浄・創保護・包帯法)の目的、方法 2.救急処置:止血法の目的、方法	講義 演習	
12	1. 創傷処置(創洗浄・創保護・包帯法)の実際 2. 救急処置:止血法の実際	学内実習	専任教員4名
13	1.主要病態・症状の定義、原因、メカニズム、救急処置、看護 ・熱傷(浮腫含む) ・熱中症(高体温)	グループワーク	
14	・外傷(疼痛含む) ・溺水 ・急性腹症(嘔気・嘔吐含む) ・中毒 ・刺咬傷(搔痒感含む)	発表	
15	1.体温調節の援助の目的、方法 1)発熱時 2)うつ熱時 3)低体温時 2.巻法の実際 1)事例による巻法の選択	講義	50分
16	1. 体温調節の援助	学内実習	専任教員3名

評価方法: 筆記試験 100%、実技試験 合否

テキスト: 基礎看護学[3]基礎看護技術II 医学書院
看護がみえる①基礎看護技術 メディックメディア
看護がみえる②臨床看護技術 メディックメディア
エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図 中央法規
救急看護学 医学書院

科目名:看護過程 単位数:1 時間数:30 1年 後期 講師名 : 渡辺恵美子 (専任教員)

科目設定理由

看護は、看護の対象者を理解し対象者の抱えている問題や課題を探り解決に向けての目標を立て支援していく力が求められる。その方法のひとつとして、看護過程のプロセスを理解し活用できる力を養う科目とする。またその力は今後の臨地実習での基盤となりさらに将来看護職として現場で求められ能力の育成となる科目とする。

学習目標

1. 看護過程の構成要素とプロセスを理解する。
2. 事例の看護過程が展開できる。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1 2	1. 看護過程とは 1) 看護過程の構成要素とプロセス 2. アセスメント 1) 情報収集 (1) 方法 (2) 種類 ①主観的情報 ②客観的情報 2) アセスメントの枠組み	講義	2回目 50分
3	1. 看護問題 1) 看護問題の種類 (1) 顕在的問題 (2) 潜在的問題 2) 看護問題の明確化 (1) 関連図 (2) ネーミング 2. 共同問題 3. 看護診断	講義	
4	1. 優先順位 1) 優先順位決定の指標 2. 看護計画 (1) 看護目標 (2) 解決策 (O-P、T-P、E-P)	講義	
5	1. 実施と評価 2. 看護記録 1) 法的位置づけ 2) 目的・機能 3) 種類 (SOAP、POS)	講義	50分
6	1. 病態の解釈分析 (事例)	演習 (グループワーク)	6～17 専任教員4名 ※演習要項参照
7	1. 情報収集 (事例)	演習 (ロールプレイ)	実習室 50分
8 9 10	1. アセスメント (事例)	演習 (グループワーク)	
11 12 13	1. 看護問題 (事例) 2. 関連図、優先順位 (事例)	演習 (グループワーク)	13回目 50分
14	1. 看護計画 (事例)	演習 (グループワーク)	
15 16	1. 実施 (事例)	演習 (ロールプレイ)	実習室
17	1. 評価 (事例)	演習 (グループワーク)	

評価方法 : レポート100%

テキスト : 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院、臨床検査データブック 医学書院
疾患別看護過程+病態関連図 医学書院、治療薬マニュアル 2024 医学書院
ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト スーヴェルヒロカワ

科目名：看護倫理 単位数：1 時間数：15 2年前期 講師名：佐藤敬子（専任教員）

科目設定理由

看護の対象は、さまざまなニーズをもちながら自己実現をめざして生きている存在である。そのため看護の実践においては、看護の対象となる人の価値観を尊重した倫理的判断が求められる。基礎分野の「生命と倫理」で学んだ基本的人権の尊重をふまえて、看護師としての責務を果たすために必要な看護倫理を学ぶ。また、看護における倫理的な意思決定支援や倫理的行動につながる知識・技術・態度を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 看護職に必要な倫理に関する基礎的知識を理解する。
2. 医療・看護における倫理的課題を考察する。
3. 人間の価値観を理解し、倫理的感受性・倫理観を高める。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	看護職を志す者の看護倫理とは何か 意思決定を支援するために必要な人間の価値観の理解 人間の価値観について学ぶ	講義 グループワーク	
2	現代医療の倫理的問題について看護職としての倫理観で考える 倫理の原則（サラ T. フライ）に則って分析する	講義 グループワーク	レポート①
3	看護職の倫理綱領（日本看護協会）から看護職に必要な倫理観を考える 看護職の倫理的責任	講義 グループワーク	
4 ・ 5	臨床の中の倫理 ・ 医の倫理 現代医療の倫理的問題	講義	片岡浩史先生 （レポート②）
6	倫理問題分析モデル アルバート・ジョンセン：臨床倫理の4分割法を用いて、事例を分析する 倫理的ジレンマを考える	演習 グループワーク	
7	ユマニチュード（認知症のケアメソッド）から、人々の心に寄り添い安心 をもたらす看護を考える	DVD鑑賞 グループワーク	
8	「看護覚え書」より看護職に必要な倫理観を学ぶ	演習 グループワーク	50分 レポート③

レポート① 「現代医療の倫理的問題について」

レポート② 4.5回目

レポート③ 「患者の権利について」、「人々の価値観を尊重した看護について」

評価方法：レポート100% [レポート①20% レポート②10% レポート③70%]

テキスト：基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院

科目名：看護研究 単位数：1 時間数：30 3年 前期

科目設定理由

看護師は質の高いケアを提供し、さらにそのケアを改善する方法を探索する責務がある。看護研究は看護を追求し、より良い看護実践へつなげるためにある。

本科目では、看護研究の意義を理解し、基礎的知識を習得する。さらに、臨地実習での関心や疑問を事例研究でまとめ、研究のプロセスを習得する科目とする。

学習目標

1. 看護研究の定義、種類、方法など看護研究に用いられる基礎的な用語を理解できる。
2. 研究のプロセスをふみ、事例研究をまとめることができる。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1. 看護研究の概要 1)看護研究の定義 2)看護研究の意義 3)研究疑問を明確化するまでのプロセス	講義		専任教員 猪俣沙織
2	1. 文献検索 1) 文献とは 2) 文献検索の方法	演習	*事前課題の準備	
3	1. 看護研究における倫理 1) 看護の倫理 2) 看護研究における倫理指針	講義		
4	1. 研究テーマの絞り込み 1) 研究テーマ 2) 研究課題 3) 研究目的 4) 文献検討 5) 研究計画書	講義		臨床心理士 石橋和幸
5	1. 研究デザイン 1) 研究デザインの種類と特徴 2) 量的研究 3) 質的研究 4) 事例研究	講義		
6 7	1. 研究方法 1) データ収集方法 2) データの分析方法 3) 研究結果の解釈	演習		
8	1. 研究のまとめ 1) 結果・考察の書き方 2) 研究論文の構成 3) 抄録の書き方	講義		
9	1. 事例研究の実際① 1) 研究テーマの絞り込み	講義 50分		
10	2) 演習計画書	講義 50分		
11 12 13 14 15	1. 事例研究の実際 1) 事例研究をまとめる	演習		専任教員
16	1. 事例研究の実際② 1)事例研究の発表	演習 講堂		

評価方法： 可否

テキスト： 看護における研究 第2版 日本看護協会出版会 *2026年より 医学書院

事前課題： 看護場面におけるの疑問や関心など研究課題としてまとめる

科目名：基礎看護学実習Ⅰ 単位数：1 時間数：45 1年 前期・後期

科目設定理由

基礎看護学実習Ⅰは健康障害を持ち入院している患者に対して、学生が直接看護を行いその関わりの中から学ぶ初めての実習である。基礎看護学実習ⅠAでは、入院により生活の場が病院になった患者の理解や医療環境を知る機会としたい。その後の基礎看護学実習ⅠBでは、患者を受け持ちどのような援助が必要かを考え実践する科目とする。

学習目標

患者と患者を取り巻く療養環境を理解し、必要な看護が実践できる。

授業計画

行動目標	実習場所	時間 (日数)
基礎看護学実習ⅠA 1. 入院生活の様子や思いが理解できる。 2. 生活の場である療養環境が説明できる。 3. 患者を取り巻く職種とその役割が説明できる。 4. 学習者として責任ある行動がとれる。	竹田総合病院 各病棟	7.5時間 (1日間)
基礎看護学実習ⅠB 1. 患者との関係を築くための基本的態度を身につけられる。 2. 患者との関わりを通し援助の必要性が理解できる。 3. 患者の状態に合わせた日常生活の援助ができる。 4. 医療チームの一員として責任を自覚した行動がとれる。	竹田総合病院 各病棟	37.5時間 (5日間)

評価方法 実習記録 実習態度 出席状況 100%

科目名：基礎看護学実習Ⅱ 単位数：2 時間数：90 2年前期

科目設定理由

基礎看護学実習Ⅱでは、患者を受け持ち看護を展開する。看護の展開にあたっては、既習の問題解決思考のプロセスを用いる。受け持ち患者とのコミュニケーションや観察等を通じて情報収集・分析し看護問題を導き、看護計画を立案し援助する科目とする。

学習目標

看護の視点から対象を理解し、問題解決思考のプロセスを用いて対象に必要な看護が展開できる。

授業計画

行動目標	実習場所	時間 (日数)
1. 患者・家族との関係を築くことができる。 2. 患者・家族に必要な看護が展開できる。 3. 医療チームの一員として責任のある主体的な行動がとれる。	竹田総合病院 各病棟	90時間 (12日間)

評価方法 実習記録 実習態度 出席状況 100%

《地域・在宅看護論》

目的

地域で生活する人々とその家族を理解し、様々な生活の場での看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

目標

1. 地域で生活する人々とその家族を取り巻く社会的背景を理解する。
2. 地域で生活する人々とその家族を支える地域包括ケアシステムを理解する。
3. 地域における様々な場での看護師の役割と多職種協働を理解する。
4. 疾患や障害を抱え地域で生活する人々とその家族に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を修得する。

科目名:地域在宅看護概論Ⅰ 単位数:1 時間数:15 1年 前期 講師名: 大房博江(専任教員)

科目設定理由

我が国は少子高齢化・人口減少が進み、家族形態が変化し、人々のライフスタイルや価値観が多様化してきた。その傾向はこれからも益々進むと見込まれ、看護の対象は病院から地域の多様な場へと拡大していく。それに伴い、看護師の役割や活動の場も多様化・複雑化してきた。そのため、本科目は、看護の対象である地域で生活する人々とその家族を生活者と捉え、生活者の暮らしや地域に関心を持ち学び続けていくための科目とする。また、地域在宅看護概論Ⅱ、地域在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域在宅看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの導入となる科目である。

学習目標

1. 地域で生活する人々の暮らしを理解する
2. 地域で生活する人々を取り巻く環境・社会背景を理解する
3. 地域で生活する人々を支える地域包括ケアシステムを知る
4. 地域の防災・減災への取り組みを知る

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1. 家族の暮らしを考える 1)暮らしとは 2)家族とは 3)生活の場 4)生き方、ライフスタイル、QOL	講義	50分	専任教員
2	1. 地域で生活する人々を取り巻く背景 1)人口構造の変化 2)国民の価値観の変化 3)疾病構造の変化	講義		
3	1. 地域で生活する人々の暮らしを支えるシステム 1)生活者の暮らしや健康に影響を与えるもの 2)地域包括ケアシステムの概要	講義		保健師 新田幸恵
4	3)自助、互助、共助、公助 4)地域の取り組みの実際			
5	1. 自らの健康を管理する 1)健康増進事業 2)生活習慣病予防、特定健康診査、特定保健指導	講義		保健師 新田幸恵
6	1. 支え合う暮らし 1)介護予防、老人クラブ、自治会 2)仲間、近隣の人々、ボランティア、民生委員	講義		若松第2 地域包括支援センター 湯田健平
7	1. 地域の防災・減災への取り組みを知る 1)防災・減災に関わる取り組みを調べる ・ハザードマップの作成	演習 (グループワーク)		専任教員
8	・各種警報 ・学校周辺の避難場所・避難所 ・病院の災害対策 など	演習(発表)		

評価方法: レポート 100% (1~2:50% 3~5:30% 6:20%)

テキスト: 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院

科目名:地域在宅看護概論Ⅱ 単位数:1 時間数:15 1年後期 講師名:大房博江(専任教員)

科目設定

地域在宅看護では、乳幼児から高齢者まですべての世代が対象となる。また、疾患や障害、介護状態にある方の療養生活の支援や、疾患の予防など様々な健康レベルにある方への看護が求められる。そのため、本科目は、地域在宅看護の対象の特徴を理解するとともに、対象者を取り巻く国内外の社会状況、関連する法制度を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 地域で生活する人々の特徴を理解する
2. 地域で生活する人々を支える看護・介護の現状を理解する
3. 地域で生活する人々に関連する倫理的課題・法制度を理解する

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 地域・在宅看護の対象者 1) 対象の特徴 ・ライフステージからみた特徴	講義	
2	・健康レベルからみた特徴	講義	
3	2) 家族の特徴 ・わが国における家族の現状 ・家族支援	講義 (グループワーク) 50分	
4	1. 地域で生活する人々を支える看護・介護の現状を知る 1) 暮らしを支える看護・介護に関わる最新トピックス	演習(グループワーク)	
5		演習(発表)	
6	1. 地域で生活する人々に関連する法制度 1) 医療保険制度	講義	
7	2) 後期高齢者医療制度 3) 介護保険制度	講義	
8	1. わが国の看護・介護にかかわる制度の変遷 2. 諸外国の医療制度との比較	講義	

評価方法: 筆記試験 100 %

テキスト: 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院

科目名:地域在宅看護援助論 I (地域包括) 単位数:1 時間数:15 2年前期

科目設定理由

高齢化や入院期間の短縮化に伴い、患者は疾患や障害をかかえながら、元の生活に戻る方や生活の場が変わる方など、様々な場の移行が見られるようになってきた。そのため、これからの医療は「治す医療」から「治し支える医療」へ転換し、地域包括ケアシステムが重要となっていく。さらに、地域包括ケアシステムを潤滑に機能させていくためには、様々な支援体制が必要となる。

そのため、本科目は、地域包括ケアシステムにかかわる多職種の理解と連携を学ぶ科目とする。また、地域在宅看護実習Ⅱへつながる科目でもある。

学習目標

1. 地域包括ケアシステムにおける多職種の機能を理解する
2. 療養の場の移行を支える多職種連携を理解する

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1. 地域の人々の暮らしを支える地域包括ケアシステム 1)子どもから高齢者まで、地域を支える介護・福祉支援	講義		竹田介護福祉本部 伊勢亀恵子
2	1. 地域包括支援センターの機能 1)地域包括支援センターの概要と職種 2)介護予防ケアマネジメント 3)総合相談支援・権利擁護 4)包括的・継続的ケアマネジメント支援 5)地域のサービスネットワークの構築	講義	50分	若松第2地域包括 支援センター 湯田健平
3	1. 居宅介護支援事業所の機能 1)介護支援専門員の役割	講義		竹田居宅介護支援 事業所 齋藤真美
4	2)ケアプランとは			
5	2. 介護を支える施設 1)居宅系サービス 2)施設サービス 3)地域密着型サービス			
6	1. 療養の場の移行困難者の支援 1)支援の実際 2)地域での療養生活を支える制度 ・生活保護、障害者に関連する法律、難病法 等	講義		社会福祉士 塚原秀一
7	1. 療養の場の移行を支える看護 1)入退院支援のプロセス、入退院支援と退院調整 2)多職種連携、入退院支援看護師の役割 3)継続看護(外来・地域医療連携) 4)地域連携パス	講義		入退院支援課 看護師 廣瀬公子
8	1. 家族の暮らしを支えるシステムを考える 1)疾患や障害がある家族の支援 2)家族から介護保険、各種サービス支援について考える	講義		専任教員

評価方法: レポート 100%(3~5:30% 7(6含む):30% 8:50%)

テキスト: 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院
地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院

科目名:地域在宅看護援助論Ⅱ(ケアマネジメント) 単位数:1 時間数:15 2年後期

科目設定理由

重度な要介護状態や医療・看護が必要な状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう支援することが求められる。そのため本科目は、ケアマネジメントの機能と実際、訪問看護に関連する制度、在宅におけるリハビリテーションの実際を学ぶことで、地域でくらす生活者の医療・看護・介護のマネジメントを学ぶ科目とする。

学習目標

1. ケアマネジメントの必要性と機能を理解する
2. 訪問看護の制度を理解する
3. 在宅療養で起こりやすいリスクと予防を理解する
4. 在宅におけるリハビリテーションの実際を理解する

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1. ケアマネジメントの概念と機能 1)ケアマネジメントとは 2)ケアマネジメントの構成要素と機能	講義	50分	介護支援専門員 齋藤真美
2	1. 介護サービスの活用の実際 1)ケアプランの実際(事例を通して)	演習		
3				
4				
5	1. 訪問看護の制度 1)訪問看護の歩み 2)訪問看護の対象者の特徴 3)訪問看護の利用者と訪問回数 4)訪問看護ステーションに関する規定 5)訪問看護の利用までの手順 6)訪問看護の費用 7)訪問看護サービスの提供	講義		訪問看護師 五十嵐綾子
6	1. 地域・在宅看護における安全をまもる看護 1)療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 2)地域・在宅看護実践にいけるリスクマネジメント 3)地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント	講義		
7	1. 生活リハビリテーション 1)日常生活動作に即した訓練 2)在宅における介助のポイント ・移動、移乗の介助 ・寝返り、体位変換の介助、 ・立ち上がりの介助	講義・演習		訪問リハビリテーション 木村真希子

評価方法: 筆記試験(5~8)50% レポート(1~4)50%

テキスト: 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院
地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践 医学書院

科目名:地域在宅看護援助論Ⅲ(看護の展開と技術) 単位数:2 時間数:30 3年前期

科目設定理由

在宅で療養している方々は、様々な疾患・障害を抱え、何らかの機能的制約や困難がありながらも地域で生活を営んでいる。そういった療養者とその家族の在宅療養を支援していくためには、多様なニーズを捉え、それに対応できる知識・技術・態度が求められる。そのため本科目は、疾患や状況に応じた看護の展開、在宅療養を支援するための援助技術・医療ケア技術を学ぶ科目とする。

- 学習目標 1. 在宅で療養している様々な療養者とその家族に必要な看護援助が理解できる
2. 療養生活を支援するための看護技術が習得できる

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1. 暮らしを支える看護技術 1)暮らしの場で看護をするための心構えとコミュニケーション	講義 演習		訪問看護師 五十嵐綾子 大野香織 藤崎紀子
2	2)療養環境調整に関する地域・在宅看護技術			
3	3)活動・休息に関する地域・在宅看護技術			
	4)食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術			
4	5)排泄に関する地域・在宅看護技術			
	6)清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術			
5	7)苦痛の緩和・暗線確保に関する地域・在宅看護技術			
	8)呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術			
	9)創傷管理に関する地域・在宅看護技術			
5	1. 地域・在宅看護の事例展開 1)医療的ケア児の事例展開	講義		
6	2)脳卒中の療養者の事例展開			
7	3)慢性閉塞性肺疾患(COPD)の療養者の事例展開			
	4)筋萎縮性側索硬化症(ALS)の療養者の事例展開			
8	5)パーキンソン病の療養者の事例展開			
	6)統合失調症の療養者の事例展開			
9	7)認知症高齢者の療養者の事例展開			
	8)がん終末期の療養者の事例展開			
9	1. 地域・在宅看護の展開方法 1)対象や看護のかかわり方の多様性 2)時間な広がりやストレングスへの着眼 3)多様な生活と価値観 4)ICFモデル(国際生活機能分類)による看護展開	講義		専任教員
10	1. 地域・在宅看護の展開 1)ICFモデル(国際生活機能分類)を用いた情報の整理	演習		14回目 訪問看護師 大野香織 藤崎紀子
11	2)援助の抽出			
12	3)技術学習			
13				
14	4)実施			
15	5)実施後の情報の整理			
		12・13回目 技術練習	12・13回目 看護実習室 在宅棟	
		14回目 (ロールプレイ)	14回目 在宅棟	

評価方法: レポート 100%

テキスト: 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院

地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院

科目名:地域在宅看護論実習 I (生活者の理解) 単位数:1 時間数:45h 1年 前期・後期

科目設定理由

当校がある地域は高齢化率が高く、過疎化も進んでいる。また、学生は核家族化により、世代間交流の機会が少なく、他者への関心およびその生活への関心が低い傾向にある。本科目は、看護を学びはじめた学生が、自分が生活する地域でのフィールドワークを通し、地域で生活する人々とその家族の暮らしに関心を持つ科目とする。また本科目は、地域在宅看護概論 I・II と並行して進み、地域で生活する人々の暮らしを支えている地域包括ケアシステムを学ぶ動機付けとなる科目でもある。

学習目標

地域で生活している人々とその家族の暮らしや健康に関心を持ち、その暮らしや健康を支えている支援を理解する。

授業計画 地域在宅看護論実習 I A

回数	行動目標	実習場所	時間(日数)
1	1. 地域の特徴を知る 2. 地域で生活している人々の暮らしや健康を知る	臨地実習 会津若松市河東町	7.5 時間 (1日)
2	1. 地域の特徴を知る 2. 暮らしや健康を支える町の取り組みを知る	臨地実習 西会津町	7.5 時間 (1日)

授業計画 地域在宅看護論実習 I B

回数	行動目標	実習場所	時間(日数)
1	1. 健康レベルが生活者の暮らしに与える影響について知る 2. 生活者の暮らしおよび健康を支えている支援や地域の取り組みについて知る	臨地実習(各事業所) ・竹田訪問看護ステーション ・看護小規模多機能型施設居宅介護支援事業所かをり ・特定非営利活動法人 ふれあいづスマイル ・会津若松市社会福祉協議会 ・老人福祉センター 希らら ・自立支援センター キッチンモモ ・会津社会事業協会 Food Labo 菜果 ・医療法人昨雲会 ウイズピア ・たけのこキッズルーム など	7.5 時間(1日)
2		机上学習 発表会(PM)	3.5 時間(0.5 日)
3		臨地実習 ボランティア活動	15時間(2日)
4		竹田健康財団 地域医療フォーラム	4時間(0.5 日)

評価方法: 実習態度 実習記録 出席状況 可否
実習要項参照

科目名:地域在宅看護論実習Ⅱ(地域包括ケア) 単位数:2 時間数:90h 2年 後期

科目設定理由

本科目は、地域在宅看護援助論Ⅰまでの学びを基に、地域包括ケアシステムにおける多職種の機能を臨地で学ぶ科目である。また、生活の場が自宅から病院・施設、病院・施設から自宅など様々な場へ移行する中で、多職種との連携も学ぶ科目とする。さらに、様々な支援を受けながら地域で生活している人々とその家族の暮らしや思いを知る科目とする。

学習目標

1. 地域包括ケアシステムにおける多職種の機能と連携が理解できる
2. 支援を受けながら地域で生活している人々とその家族の暮らしや思いが理解できる

授業計画

回数	行動目標	実習場所	時間(日数)
1	1. 地域包括支援センターの概要が説明できる 2. 支援を受けながら生活している人々とその家族の暮らしや思いが説明できる	臨地実習 若松第2 地域包括支援センター	7.5 時間(1日)
2	1. 居宅介護支援事業所の概要が説明できる 2. 支援を受けながら生活している人々の暮らしや思いが説明できる	臨地実習 竹田指定居宅介護支援事業所	15 時間(2日)
3	1. デイサービスセンターの概要が説明できる 2. 支援を受けながら生活している人々の暮らしや思いが説明できる 3. 施設における看護師の役割が説明できる。	臨地実習 竹田ほほえみデイサービスセンター	15 時間(2日)
4	1. 認知症対応型通所介護の概要が説明できる 2. 支援を受けながら生活している人々の暮らしや思いが説明できる	臨地実習 認知症対応型通所介護 OASIS	15 時間(2日)
5	1. 小規模多機能型居宅介護の概要が説明できる 2. 支援を受けながら生活している人々の暮らしや思いが説明できる 3. 施設における看護師の役割が説明できる。	臨地実習 小規模多機能型居宅介護 オレンジ	15 時間(2日)
6	1. 通所リハビリテーションの概要が説明できる 2. 支援を受けながら生活している人々の暮らしや思いが説明できる 3. 施設における看護師の役割が説明できる。	臨地実習 竹田通所リハビリテーション TRY	7.5 時間(1日)
7	1. 地域で生活している人々への健康支援が説明できる	竹田健康財団 地域医療フォーラム	7.5 時間(1日)
8	1. 地域で生活している人々の暮らしに対する支援が説明できる	臨地実習 ボランティア活動	7.5 時間(1日)

評価方法: 実習態度 実習記録 出席状況 可否
実習要項参照

科目名:地域在宅看護論実習Ⅲ(在宅療養者の看護) 単位数:1 時間数:45h 3年 後期

科目設定理由

本科目は、地域在宅看護論の最後の科目であるため既習の学びを統合し、様々な疾患や障害を抱え地域で生活している療養者とその家族が抱える問題や持っている力に目を向けた看護援助をしていく科目である。また、本科目は、療養生活の場へ訪問し、療養者とその家族の暮らしを知り、暮らしに合った援助方法を学ぶ科目である。

学習目標

1. 地域で療養している人々とその家族の生活を理解し、必要な看護が実践できる。

授業計画

回数	行動目標	実習場所	時間(日数)
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養者とその家族を支援している患者会の役割が説明できる 2. 支援を受けながら地域で生活している人々の暮らしや思いが説明できる 	臨地実習 会津 ALS の会	7.5 時間(1 日)
2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護小規模多機能型居宅介護の役割・機能が説明できる 2. 利用者とその家族の生活状況や思いが説明できる 3. 看護小規模多機能型居宅介護における看護師の役割が説明できる。 	臨地実習 看護小規模多機能型居宅 介護事業所 かをり	4時間(0.5 日)
3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養者とその家族が望む療養生活について述べられる。 2. 療養者とその家族の生活状況に合わせた看護が安全に実践できる。 3. 療養者とその家族の生活状況を支える訪問看護師の役割が説明できる。 	臨地実習 竹田訪問看護ステーション	33.5 時間(4.5 日)

評価方法: 実習態度 実習記録 出席状況 可否

実習要項参照